

## 海外安全情報

### ～ブラジル北東部における原油汚染～

8月末以降、北東部の海岸にコールドール状の原油が着岸し、大規模な汚染が発生しています。

○日時：8月30日～現在

○場所：北東部9州の海岸（マラニョン州，ピアウイ州，セアラ州，リオ・グランデ・ド・ノルテ州，パライバ州，ペルナンブコ州，アラゴアス州，セルジッペ州，バイア州）

○概要：

報道等によると本年8月30日から北東部の2,500kmの海岸線に位置する249カ所（9州，92市）（10月28日現在）に大小の規模で原油が漂着しています。原油にまみれたウミガメの死骸が発見され，一部地域では遊泳が禁止されています。軍隊，消防や一般市民も含め清掃除去作業が行われており，また，ブラジル海軍によれば漂着する原油の量は減少傾向にあるものの，依然として原油の漂着が確認されており，ベネズエラ産の原油である等判明事項は増えてきていますが，正確な原因は未だ不明なため，今後の動向は予断出来ない状況です。

○注意事項：

原油による人体への健康被害が懸念されますので，上記海岸線にある遊泳禁止となっていない海水浴場でも，なるべく海水浴は控えて下さい。また，興味本位で近づき，防護服や手袋等を着用せず，直接原油に触れることがないように注意して下さい。原油に直接接触すると，かゆみや発疹，火傷等の症状が発生し，原油から発生する蒸気を吸い込むと頭痛や喉の痛み，胸やけが生じ，目に触れると目の痛みや涙が多く出る等の症状が発生する場合がありますので，その場合は病院で治療を受けるようにして下さい。

（了）